

Saori Ikeuchi TIMES / no.018 / 2020.6.14 sun.

# TOKYO 12 HAUS

池内さおり通信  
 日本共産党  
 衆院東京12区  
 池内さおり事務所  
 〒115-0042  
 東京都北区志茂  
 2-53-7

電話：03-5939-6581 ファックス：03-5939-6582 メール：tokyo12haus@saori-ikeuchi.com

## 子どもや女性、すべての人に行き届く支援を！

新型コロナウイルス対策の10万円特別定額給付金をめぐって、虐待を受けて自宅に居られない10代の子ども達から「自分への給付を受け取りたい」との相談が次々寄せられています。

給付対象は全ての個人としながらも、家族分をまとめて世帯主に振り込むという給付方法は当初から問題視され、国会でも共産党などが是正を求めています。これを受け政府は、DVや虐待などで別居している場合は、自治体への申し出により個別に受け取れるとの見解を通知。しかしその内容が各自治体で徹底されていないなどにより、窓口で申請を断られるケースが頻発しました。

池内さおりさんは5月、相談に応じて豊島区や国立市への申請に付き添い、個人への給付が正当に行われるよう、各自治体とやり取りを行いました。(裏面へ続く)



10代向けの無料カフェの様子 (Colabo Twitter より)

### 色あざやかな社会へ

Column vol.18

踏み出す一歩！未来をひらく

仲間が増えるのは本当に嬉しい！先日、事務所にメールをくれた人が入党してくれました。31歳！

「子どもの頃から自分の意見をもっと言いたかった」と語るAさん。しかし、気持ちを素直に主張したら怒られたり、先生や大人の顔色を見ながら「こう言えば喜ぶだろうな」と考えて発言しなければならぬことに「すごく違和感を感じてきた」と話します。もつと早くから政治に関わりたかったけど、「自分など相手にしてもらえないのではないか」となかなか一歩を踏み出せなかったそうです。

このコロナ禍で思いは溢れたといえます。「どうしても話を聞いてほしい。たとえ無視されてもそれでいい！」と意を決し、私の事務所にメールをくれました。

「就活のときリーマンショックで苦労した。しかし社会はそんなことさえも忘れていくようだ。コロナで大変な思いをしている人たちに自分と同じような気持ちになつて欲しくない。」

そう語る彼は、「自分も何かしたいし、しなければならぬ」と入党！踏み出してくれた気持ち何より嬉しい！その思いと共に歩む一人として、私も全力をつくします。



池内さおり  
Saori Ikeuchi  
前衆議院議員

毎月12日は

## TOKYO 12 HAUS の日

池内さおりがお待ちしている「TOKYO 12 HAUS」の日。  
実施再開のめどが立ち次第お知らせいたします。

## 池内さおり トークタイム

新型コロナウイルスの状況を踏まえ、  
6月の実施を見合わせます。



## 自粛下、暴力・性被害が深刻に

(表面より) 家に居場所のない若い女性に対する暴力や性搾取の問題はこの間いっそう広がり、支援団体への相談件数も激増しています。

池内さんは5月27日、一般社団法人 Colabo が新宿の街で定期開催している10代向け無料カフェに参加。無料で食事ができることや、帰る場所がない場合は避難用のホテルを紹介することなどを伝える声かけ活動も行いました。

その間に、若い女性に買春を持ちかける男性や、性産業への「スカウト」を何人も目撃。池内さんは、力関係の差を利用して困難を抱えた子どもや女性を搾取するやり方は許せないと語り、見て見ぬふりをしない社会をつくらうと決意をあらたにしました。

## 障がい児・家族の 尊厳と人権まもる政治へ



施設前、足立区議らと池内さん(右から二人目)

池内さんは5月25日、ぬかが和子、はたの昭彦、横田ゆう各足立区議とともに、足立区にある重症心身障がい児の通園施設「FLAP YARD」を視察。施設長の矢部弘司さんから、新型コロナ影響下での状況や要望を聞きました。

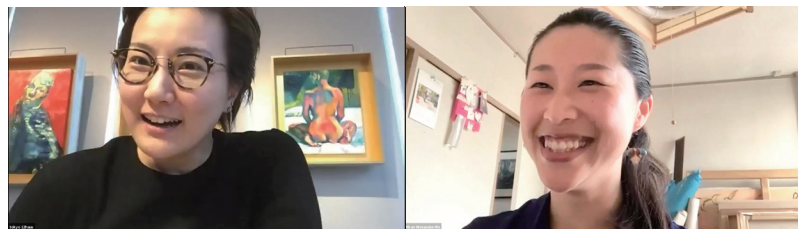
施設には国からの直接的な給付や補償はなく、感染対策や利用者減に伴う負担増など大変なご苦労が。そして家庭では、多くは母親に、障がい児のケアと家族全員分の家事という過重負担がのしかかっています。

池内さんは、コロナ禍で矛盾と問題点が顕在化しているのを痛感したと語り、実態と要望を行政に届け、一人ひとりの尊厳と人権が保障される政治実現のため全力をあげるとのべました。



FLAP YARD での活動の様子

## 画家・林美蘭さんトークセッション 開催しました！



オンラインで語り合う池内さん(左)と林さん

5月30日、Tokyo12HAUS で個展を開催した画家の林美蘭さんと池内さんとの、オンライントークが行われました。

林さんは「社会の枠の外を生きざるをえない人達もつ、尊厳や本質的な美しさを表現したい」と、女性やホームレス、性的マイノリティなどがモチーフのそれぞれの作品に込めた思いを解説。その制作姿勢と池内さんの取り組み課題とが共鳴しあった出会いも語られました。

日本各地から30人が参加し、後半には活発な発言が。芸術分野でのジェンダー視点の発展についてや、芸術にアクセスしやすくするための文化予算の拡充、自由な美術教育の必要性など、多岐にわたり議論が深まりました。

## 高校・大学生とオンライン交流 日本のジェンダー課題を語る

池内さんは5月24日、非営利団体のユースメンバー約30人とのセッションに参加。オンラインハラスメントなどのジェンダー課題について語り合いました。

池内さんは、女性へのオンラインハラスメントについて、国会や支援団体の取り組み、自身の体験なども挙げながら実態を語り、これまでリアルな生活空間で存在し続けてきた女性に対する差別や暴力と地続きのものだと強調。まずは女性差別という概念を定義することが第一歩になるとして、先進的なフランスの取り組みを紹介しました。

参加者からも、自身の学校でジェンダー課題の改善を進めるには？など主体的な問題意識が多く出され、互いに学び合う場となりました。

